



特別賞

名古屋市学校施設リフレッシュプラン



～ 懇談会やワークショップを開催しながら、計画を策定しました！ ～



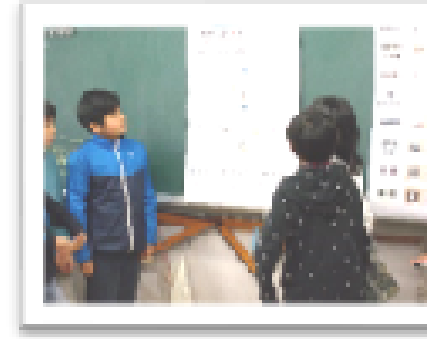
第1回懇談会はワークショップ形式で開催



子ども向けのワークショップ（東桜小、菊井中）



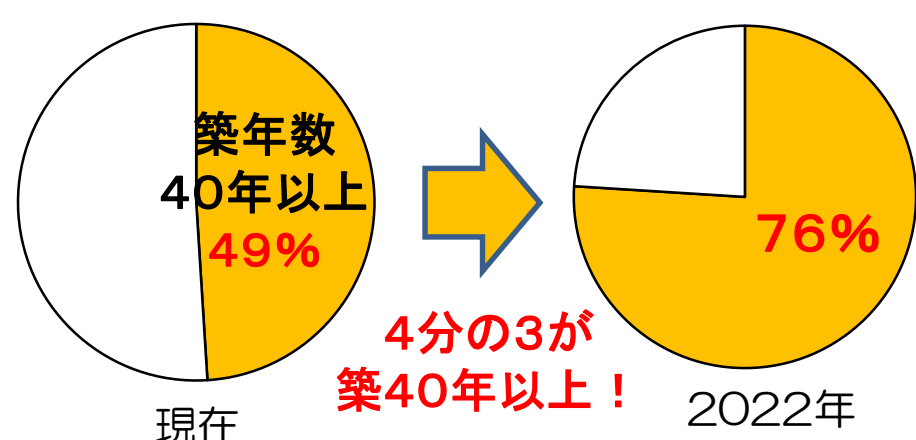
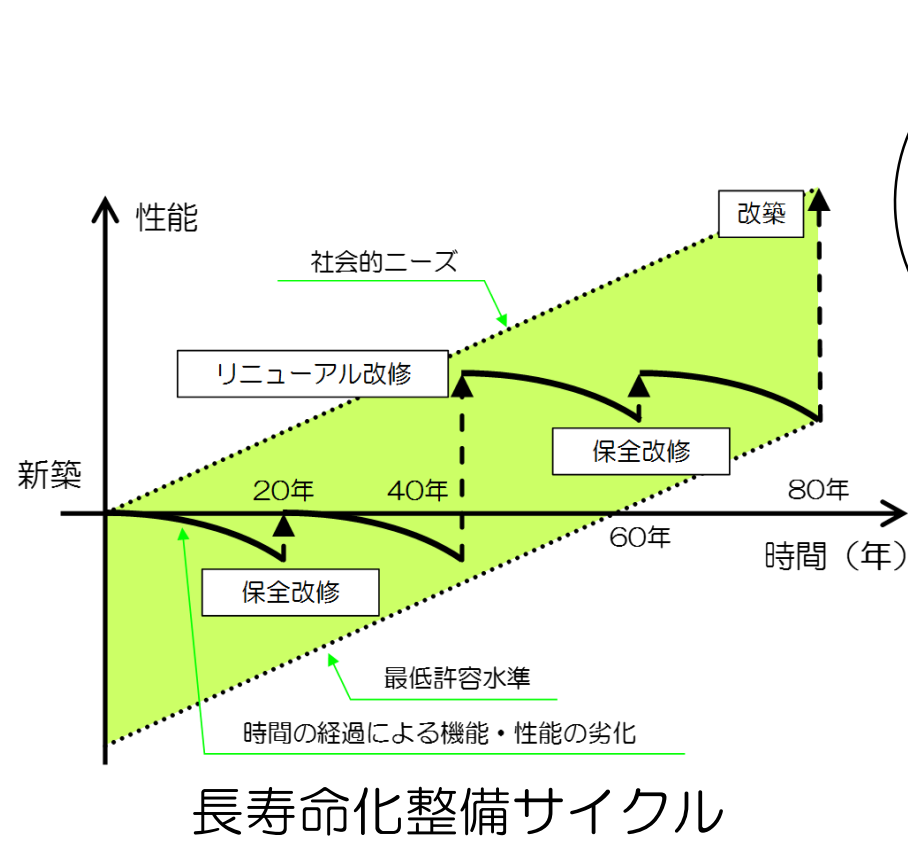
みんなが気に入っている場所について各グループで意見を申し合いました



各グループの発表風景

現状① 学校施設の老朽化が進んでいます

現状② このまま従来の整備を続けると、今後、整備費が大幅に増加します



長寿命化改修事例

財政的に持続可能な範囲で、安心・安全・快適な環境を確保するため・・・

整備手法を見直し、長寿命化により築80年程度まで大切に使います！

文教施設等
分野

長寿命化による安心・安全・快適な学校づくり

名古屋市学校施設リフレッシュプランに基づく施設の長寿命化への取り組み

取組概要

校舎の耐用年数に応じて適切な時期に適切な改修を行うことにより、経費の抑制と平準化を図りながら安心・安全・快適な施設環境を確保していく計画を策定。築年数に応じた改修による校舎の長寿命化に加えて、計画を持続可能とするため、近年の施設整備費（一般財源ベース41億円）の範囲内で取り組む手法として、将来の児童生徒数を踏まえた「保有資産量の適正化」に取り組む手法を検証。

受賞理由

長期的かつ財政的な視点から学校施設の長寿命化を図り、実践につなげようとしている点や、全国的に学校施設の長寿命化計画の策定率が低い状況の中、他の自治体の参考となる先進的な取組であり、継続的な運用も期待される点が評価された。

取組のポイント

原則80年程度まで校舎を使用することとし、概ね20年ごとを目処に保全改修（屋上防水や外壁改修など）やリニューアル改修（内外装、設備改修など）を組み合わせ、劣化が著しく進む前に老朽化対策することで、今までの「事後保全」から「予防保全」への転換を図る。

校舎を長寿命化することにより一定程度施設整備費を抑制できるが、近年の施設整備費を上回ることになり、計画の持続可能性の検証が必要となる。そこで、今後の人口減少社会を見据え、学校の統合等を含めた保有資産量の適正化の検証を行った。その結果、近年の施設整備費の範囲内とするには、保有資産量を19～24%程度削減するとともに跡地活用に取り組む必要があるとした。

受賞者について

受賞者

名古屋市教育委員会
杉崎正美／金田慎也／佐野洋一／山中隆弘
矢野光宏／土田広幸／長谷川裕一

コメント

この度は文部科学省特別賞を頂き大変光栄に存じます。この場をお借りし計画策定に携わった全ての方に感謝申し上げます。学校施設リフレッシュプランの整備計画に基づき、校舎をできるだけ長く使いながら、子どもたちにとって安心・安全・快適な学校づくりに取り組んでいきます。

団体概要

名古屋市教育委員会総務部学校整備課では、市立学校・幼稚園415校の管理や、新增改築事業、大規模な改修、修繕等を行っています。校舎の半数以上が築40年以上経過し老朽化が進む中、学校施設の教育環境の確保に取り組んでいます。

問い合わせ先

名古屋市教育委員会総務部学校整備課
主査 長谷川 裕一
052-972-3276
/a3224@kyoiku.city.nagoya.lg.jp